

精神科リハビリテーション室 この一年

OT 内田 喜大, 窪田 博文・NS 谷口 直美

【精神科OT部門（内田）】

OT部門のスタッフは昨年同様、作業療法士1名、助手1名で変わりありません。

OT種目での変更は、自由クラブの内容を評価の時間にあてたり、個人的な関わりや対応をしたり、社会資源の利用（バスの乗り方、図書館の利用）を行いました。

評価は新たに質問表を用い、本人の困っている事、悩み、やってみたい事、今後どんな生活をしたいかを把握し、困っている事の改善や目標を達成するには何が必要かを一緒に考え、一段ずつ達成できるよう練習しました。

また退院後の生活で何が必要かなど、状況を把握する為に退院前訪問指導も行いました。

行事はふれあい広場、ジングスカンパティー、作品販売、クリスマス会を行いました。

2009年1～12月までの実施人数は4851人で2008年の4341人より約11.7%増になりました。

実習生は臨床実習2名を受け入れました。

今後は新たに診療点数化されるといわれている認知行動療法を取り入れていきたいです。

【精神科デイケア（DC）部門（窪田）】

2009年4月から馬場PSWがDCのスタッフに加わりました。正職のスタッフが増員されたことで、DC通信、写真部、釣り会などのクラブ・サークル活動やSST、発達障がいグループ、集団療法、高次脳機能障がいグループ、食事・運動ガイド、症状自己管理セミナー、就労準備セミナーなどの心理・教育的プログラム、DC祭やバスレクなどの行事を充実させることが出来ました。また、道内のDCでもあまり行われていないナイトケア（16～20時までのフォローアップ）も開設できました。そのため2009年のDC延べ人数は2861人で、2008年の2311人より23.8%増加しました。

DCの重要な機能に、患者さんへの多職種による多様な関わりがあります。DCを利用する多様な患者さんの多様な課題に向き合い、関わり、生

活していく力、生きていく力を支援していくためには多職種による多角的な視点とアプローチが必要です。当部門でも医師、看護師、作業療法士、精神保健福祉士によりDCを運営しています。また内容によっては、薬剤師、栄養士にも協力を頂いてプログラムを運営しています。今後もチームアプローチを充実させよりよいプログラム作りをしていきたいと思っています。

【精神科訪問看護部門（谷口）】

2009年7月から当院の精神科に通院されている方を対象に訪問看護を行っています。

精神科訪問看護とは、精神に障害を持ちながら地域で生活している方が、家族や地域社会で安心して日常生活を送ることができるよう、スタッフが定期的に訪問し、相談や必要な支援などを行うものです。心の病気も体の病気と同じように、入院から外来まで継続した治療や看護、福祉など一貫した支援が必要です。私たち訪問看護を担当するスタッフは、主治医と連携し、本人や家族の方々と一緒に考え、より良い在宅生活が送れるようお手伝いさせていただいています。

今後は、DCや訪問看護スタッフだけではなく、各市町村の保健師や関係機関との連携を密にし、包括的な支援が実施できるよう調整を図っていくことも訪問看護業務の一つだと考えています。また、名寄市内の訪問看護だけでなく、当院がセンター病院としての役割を担っていることから、名寄市以外の訪問看護にも力を入れていきたいと考えています。12月からは鈴木看護師がスタッフに加わったことで、さらに訪問看護の活動の幅が広がってきています。退院前訪問指導など新たな取り組みも今後考えていきたいと思っています。訪問看護を利用していただいた方々が地域社会で安心して生活が送れるよう今後も貢献していきたいと思っています。